

岩倉市特別職報酬等審議会（第1回）会議録（要約）

日 時 平成30年1月16日（火） 午前10時～正午
場 所 岩倉市役所 7階 会議室7
出席者 （委員）小瀬木正勝、岡島正利、赤尾光清、東野広隆、恒川健治、伊藤憲治、櫻井芳樹、浅田善一、山田幹夫、小笠原三代子
（事務局）市長 久保田桂朗（諮問まで）、総務部長 山田日出雄、秘書企画課長 佐野剛、同統括主査 加藤淳、同主任 飯田慈至

1 委嘱状交付

久保田市長から10名の委員に委嘱状を交付。

2 市長あいさつ

特別職の報酬等が適正であるかについて、ご意見を伺う。

3 会長の選任

互選により伊藤委員に決定。会長からの指名により、職務代理は山田委員に決定。

4 諮問

別紙、諮問書のとおり

5 審議

事務局より配布資料の説明。

（会長） 忌憚のない意見を出していただきたい。

（委員） 資料5に将来負担比率とあるが、何に対する何の割合なのか。

（事務局） 例えば、市の事業として大きな工事を行うことになると、その経費を負債として借入れなければならない。将来負担比率とは、基金等の額を含んだ一般会計の額が将来負担すべき負債の額に対する比率を示している。

（委員） 資料3について、特別職報酬等の月額と年額の順位がずれているのはなぜか。

（事務局） 自治体によって、給料以外に地域手当が支給されていることによるもので、地域手当の支給があれば、年額に含まれる。本市は特別職に地域手当を支給していない。

（委員） 資料5について、年々、財政力指数は上がっているが、将来負担比率も上がっているのはどういうことか。

（事務局） 財政力指数とは、必要な支出に対する収入の割合を自治体の規模

に依じて、国が数値化しているものである。近年、市税収入等の自主財源が多く確保できており、それに伴い財政力指数は上がっているが、それに反して学校給食センターや道路等のインフラ整備により、負債としての借入れが増加していることが、財政力指数が上がっているにも関わらず、将来負担比率も上がっていることの要因である。

(会長) この審議会の方向性として、報酬額等の引上げ、引下げ、据え置きの方策があると思うが、意見を出していただきたい。

(委員) 平成27年度の答申に「今後の市政運営に期待し、」とあるが、その後の市政運営がどうであったのかをしっかりと評価して判断すべきではないか。平成27年度当時、どのような市政運営を期待してこのような答申に至ったのか。

(事務局) 期待する市政運営についての具体的な議論はなかったが、市民意向調査において76.8%の市民から本市は住みやすいまちであるとの高い評価を得ていたということ、及び将来に渡ってその数値がさらに高くなることを期待して、据え置きが妥当という結論に至った。

(委員) 市民意向調査の数値や将来への期待という言葉は、抽象的であるので、ここでの議論にはそぐわないのではないかと。何か具体的な判断材料になるものを示していただきたい。

(委員) 例えば、待機児童ゼロなど、何か市が掲げる目標値の達成度で判断できないか。

(事務局) 数多くの施策をここで1つ1つ確認していくことは困難である。さらに、どの施策を取り出して評価していくのかについても、判断に苦慮するところであるため、前回の審議会においても「住みやすい」という一番根幹となることを数値化して判断したものである。

(委員) 久保田市長は就任したばかりであるため、現在の市政の評価で引上げ、引下げという議論にはならない。現状維持が妥当ではないか。

(委員) 資料によると、本市の財政状況が良くなってきていることを鑑みても、現状維持が妥当ではないか。

(委員) 市長は24時間365日、市長という職責を背負っており、有事の際は、いかなる場合も現場に駆け付けなければならない。そのことを鑑みるに現在の給料額は少ないのではないかと。さらに、久保田市長は就任したばかりでまだ、前市長の引き継ぎをこなしている段階である。この段階で給料額を下げた場合は、モチベ

ーションが下がってしまう恐れがあるため、今回は据え置きとし、2年後の審議会の際に、改めて市政内容の評価から判断してはどうか。

(委員) 今回の審議会において、久保田市長の市政を評価するために、現在の市民満足度でもって給料額を諮るのは、時期尚早であろうと考える。

(委員) 市政を評価しようという議論になっているが、何か不祥事があったり、市政の方向性が間違っていれば、選挙において市民から選ばれないという形で判断されてしまう。したがって、本市のリーダーとしてふさわしい給料がいくらなのかという視点のみでよいのではないか。よって引上げという選択肢はなく、少なくとも現状維持なのではないか。

(委員) 本市は、商工関係をはじめ、市を良くしようとする姿勢が他の自治体に比べて強い。また、規模は小さいが、しっかりと市政を行っていると思う。そのような中でリーダーシップをとっていくには、市長をやっていききたいという強いモチベーションが必要である。そのために給料額を引上げることは個人的には良いと考えるが、市民感情を鑑みると据え置きが妥当であると考えている。

(委員) 市長、副市長については、据え置きが妥当だと考えるが、教育長については、小中学校の数が7校と他自治体に比べて非常に少ないにも関わらず、給料額が上位であるという印象を受ける。議員等、他の役職についてもどういう職務内容なのかが見えてこないため、判断することが難しい。これからは、目標数値のようなものを掲げてはどうか。

(事務局) 自治体の大きさによって学校の数は変わってくる。学校数が少ないからといって業務量が少ないということにはならない。岩倉中学校、岩倉北小学校のような生徒数の多い学校は、気を配らなければならない点も多い。

(委員) 市民目線から見ると、久保田市長の市政運営は評価できるものであると思うので、据え置きが妥当であると考えている。

(委員) どこに判断材料を置くのかということが非常に難しいが、他自治体に比べ財政力が低い中、市長をはじめ職員が頑張っている。現状維持が妥当ではないかと考える。

(委員) 平成25年度に他自治体が報酬額等を引下げているにも関わらず、岩倉市は据え置いている。また、久保田市長は片岡前市長の市政を引き継いでいる状態であるため、市政への評価は2年後の審議会の際に審議すべきではないか。これから頑張っている市政を行って

いこうというタイミングで報酬が下げられては、モチベーションも下がってしまう。また、教育長についても、職員とともに学習会を開くなど、その働きは評価できる。ともに据え置きでよいのではないか。一方、副市長や議員については、その業務内容が見えてこないので判断することができない。

(委員) 市政の内容について、2年後の審議会で評価するという意見が多く出たが、何を指標にして評価するのか決めておかないと、また同じ議論になってしまう恐れがある。どこに指標を置くべきか。

(委員) 選挙の際に掲げる公約に対して、どの程度進捗しているかということが一つの指標になるのではないか。

(委員) 他自治体は、何を基準に審査しているのか。

(事務局) 実際に他自治体の議事録等を全て見たわけではないが、やはり同じような議論が交わされているものと思われる。

(委員) 副市長は公募で決まるのか。

(事務局) 市長が指名し、議会の同意を得て選任される。

(委員) 全てを網羅することは難しいと思うが、どのような職務内容、責務があるのか示してほしい。そうでないと自分が見えている部分だけで判断してしまう。

(委員) 議員は、報酬以外にどのような手当が支給されるのか。

(事務局) 政務活動費が支給される。本市においては、一人当たり年間18万円交付されている。

(委員) 次回に向けて、より詳細な資料を求めたい。

(事務局) 資料が膨大になりすぎても分かりにくくなるため、本日の資料は一定精査し、お配りした。三役、議員の主な役割について次回の審議会で示したい。

(委員) 議員は、どれくらいの頻度で出勤しているのかも示してほしい。

(事務局) 本会議以外にも委員会、会派での活動等があるため、正確な日数を出すことはできないかもしれないが、お示しできるものは用意したい。

6 その他

・第2回の開催について

1月23日(火) 午前10時15分～ 市役所7階 会議室7

以上